



平成 30 年 9 月 28 日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashow/>

特定の課題に対する調査の分析と今後の取組

教務主幹 佐藤 啓子

4 年生

3年生から6年生までの区の特定課題に対する調査の結果をもとにして、学力向上のための校内研修が行われました。学年ごとに久我山小の強みと弱みを分析し、今後の学習の重点指導についてまとめました。

意識調査の結果は、ほとんどの項目で区の平均より高いポイントになりました。これは、きめ細かく一人一人を指導・みとりを心掛けてきただけでなく、保護者の方や地域の方が日ごろから子どもたちを認め励ましてくださった結果です。学校では、この自尊感情の高まりを生かし、問題を解決していくための思考力・判断力・表現力を育み、主体的・対話的な学習の推進やICTを活用した分かりやすい授業作りを進めていきます。

各学年の国語と算数の主な取組

* 紙面の都合で《国語》《算数》で主な取組になります。

1 年生

《国語》

漢字やカタカナの学習など、言語事項に関する力の定着を図るため、授業や家庭学習で練習した成果を小テストで確認する。児童が言葉の意味を理解しやすいよう、言葉のまとまりを意識するために線を引かせたり、動作化や例文の提示をしたりしていく。

《算数》

文章から「分かっていること」「きかれていること」をはっきりさせるために線や印を付けながら読む。文章問題などの言葉の意味を理解できるように、言葉の言い換えをしたり、イメージしやすいよう場面絵を用意したりする。間違いの多い問題については、パターン化して繰り返し指導し、定着を図る。

2 年生

《国語》

新出漢字を学習する際、字のポイントを全体で確認することで、字形を意識して丁寧に書こうとする児童が増えている。漢字を書くことに苦手意識がある児童には、今後も個別に指導を行う。初見の文章を音読するとき、言葉のまとまりや文の意味を捉えられない時には、様々な文章に触れさせるとともに、言葉の意味や使い方を指導していく。

《算数》

単元や毎時間の導入には既習事項の確認を行うことで、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。時間や長さ、かさなどの量を想像することに苦手意識をもつ児童がいるので、具体物や図などを用いた数学的な活動を通して、実感をもって理解できるようにしていく。

3 年生

《国語》

言語事項と聞く能力に関して課題がみられる。言語に関しては、基本問題を反復練習して確実に身に付けさせる。また、「大事なことを落とさないように聞く」ことについては、普段から、話の中心に気を付けて聞くことを意識させる指導をしていく。

《算数》

技能は、区の平均を上回っている。今後も、基礎的・基本的な力をより確実にするために、東京ベーシックドリルを活用した朝学習や計算練習の家庭学習を継続する。また、何を学んだか自覚し、知識・理解として定着させるために、毎授業のまとめや振り返りを徹底して指導する。

《国語》

昨年度は話したり聞いたりすることが課題であったが、今年度は区の平均を上回ることができた。普段から話の中心を意識させたり、考えや感想の交流をしたりする機会を多くとってきたことが成果として表れている。今年度は書く力と読む力に関して課題が見られた。読書や音読をして文の構成を知ったり、書く活動を増やしたりしながら取り組んでいく。

《算数》

おおむね区の平均を上回ることができている。今後は既習事項を確実に身に付けていくため、授業の最初に前時の学習を振り返ってから始めるようにしていく。また、1時間の授業で学習した内容をまとめ、この時間で何を学習したのかを子ども自身が理解できるようにしていく。

5 年生

《国語》

基礎問題・応用問題ともに区の平均を上回っている。その中でも観点別にみると、「話すこと・聞くこと」「書くこと」に比べて「読むこと」での平均がやや低い傾向にあった。最も正答率が低かった問題は、説明的文章での「事実と意見の関係を捉える」というものである。文章を読み、「事実」が書かれているものはどれか選択肢から選ぶという問題であった。書かれている文章が「事実」なのか「意見や感想」なのかを判断する力が十分でないということがわかった。5年生では、事実と意見を区別して書いたり話したりすることを学習していく。「読むこと」でも、そこを意識して読み取ることができるよう、丁寧に指導していく。

《算数》

全ての項目において、区の平均を上回っている。4年生までの学習内容の定着をみる今回の調査において、算数科では、学び残しの多い児童が0%という結果であった。この結果から、前年度までの基礎基本が定着している児童が多いことがうかがえる。1学期の早い段階で、4年生の学習内容の復習を行ったことで、4年生までの力を確かめながら5年生の学習にスムーズにつながることもできた。5年生の内容においては、単位換算や割合でのつまずきが多くみられるため、学習したことを丁寧に復習し、反復練習を重ねていくことで、基礎基本の定着と習熟を図っていく。

6 年生

《国語》

「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、区の平均を上回った。全学年までの学習内容の定着をみる今回の調査では、8割を超える児童が、「おおむねまたは十分な定着がみられる」という結果であった。一方、「読むこと」においては、区の平均を下回る結果となった。全体的に語彙が十分でない傾向にあるため、文章から読み取ったり、自分の考えを表現したりすることに課題がある。今後は、思考に関わる語彙を中心に増やしていくことを目標として、辞書を使って意味を調べる学習を取り入れたり、適切な場面で言葉を選択して使うことができるようにモデルを提示したりして、より実践の場で生きる語彙力を身に付けさせていきたい。

《算数》

正確に計算することができる「技能」においては、区の平均を上回る結果となった。しかしながら、全体的に区の平均を下回る結果となった。算数科の学習は特に系統性が大切であるが、既習の学習内容と、現在学習している内容との結びつきが弱いというところに課題がある。そして、それが数学的な考え方や表現の弱さにつながっている。今後も、単元の習熟だけでなく、復習や繰り返し練習を効果的に取り入れ、既習の学習内容とも関連付けながら、児童がよりつながりを意識したり実感したりすることができるように指導していく。